

# 国際リニアコライダーの日本誘致に関する要望

平成25年5月

東北 I L C 推進協議会

岩 手 県

宮 城 県

仙 台 市

国立大学法人東北大学

一般社団法人東北経済連合会

岩手県国際リニアコライダー推進協議会

東北 I L C 推進協議会では、第 2 回総会において、下記決議を採択いたしました。

国におかれましては、この決議の主旨を鑑み、国際リニアコライダーの日本誘致に向け、積極的に取り組まれるよう、強く要望いたします。

### 国際リニアコライダー（I L C）の東北誘致を求める決議

国際リニアコライダー（I L C）は、基礎科学の研究に飛躍的發展をもたらすだけでなく、加速器や測定器をはじめとする多くの先端技術の開発と実用化を促進させ、21世紀の「科学と技術」を大きく前進させるビッグプロジェクトである。

I L C が建設される地域には、世界最先端の研究を行うため多くの人材が集まり、同時に、精密実験を支える先端技術も集積し、世界中から優秀な人材と技術が集まる「国際学術研究都市」が形成される。

この I L C 計画を日本で実現することは、科学技術創造立国を標榜する我が国にとって、またとない機会であり、高度な技術力をもととした我が国の「モノづくり産業」を更に成長発展させる原動力になり、日本再生のロードマップになり得るものと考えます。

東北の北上山地には 50 k m に亘る花崗岩が存在し、I L C の建設候補地として最も相応しい適地である。近くには、新幹線や高速道路が通り、空港へのアクセスも整っているうえ、首都圏との接続も容易で利便性も高い。更に、仙台や盛岡などの都市機能を備え、近隣には中規模の市街地があるため、生活環境を整える上での社会基盤は揃っている。

東日本大震災から東北が復興を果たしていくためには、長期間にわたり人々が心をひとつにし、夢を持って取り組んでいくことのできる象徴的なプロジェクトが是非とも必要である。そのため東北はいま、一丸となって I L C の東北誘致を実現したいと熱望している。

国においては、I L C を国内に誘致することを速やかに決定し、I L C 実現による科学技術創造立国の諸施策を推進し、日本再生の原動力とすべきである。

また、東北が東日本大震災からの復興を果たすための象徴的なプロジェクトとして、I L C を位置づけていることに鑑み、科学技術的評価により国内候補地が北上山地に一本化されたあかつきには、国家プロジェクトとして I L C の東北実現を強力に推進することを要望する。

上記のとおり決議する。

平成 25 年 4 月 26 日

東北 I L C 推進協議会第 2 回総会

平成25年5月31日

## 東北 I L C 推進協議会

岩手県

知事 達増拓也

宮城県

知事 村井嘉浩

仙台市

市長 奥山恵美子

国立大学法人東北大学

総長 里見 進

一般社団法人東北経済連合会

会長 高橋宏明

岩手県国際リニアコライダー推進協議会

会長 元持 勝利